

文化心理学講演会

PSYCHOLOGY AT THE CROSSROADS:

HOW QUALITATIVE METHODOLOGY WORKS FOR GENERALIZING IN SCIENCE

(岐路に立つ心理学 —質的方法は一般化をめざす科学にいかに関立つか)

講演者 ヤーン ヴァルシナー **Jaen Valsiner** (Ålborg University, Denmark)

主著『新しい文化心理学の構築』(新曜社, 2013)

コメンテーター 伊藤 哲司 (茨城大学)
尾見 康博 (山梨大学)

司会 能智 正博 (東京大学)



ヤーン・ヴァルシナー教授は、「経験を生きていく人間」という視点から科学としての心理学を再構築しようとする知の冒険者である。教授の心理学の中心的なキーワードは「文化」であるが、それは人間行動を外部から規定する要因ではなく、人間行動に不可欠の一部分とみなされる。今回の講演会では、やはり現代の心理学に新たな視点を提供しつつある質的心理学を議論の俎上にのせ、文化心理学の観点からその意義と可能性を展開していただく予定である。コメンテーターとして、文化の視点を重視しながら心理学研究を続けており、日本質的心理学会でも活躍されているお二人の先生をお招きし、議論を深めていきたいと考えている。

日時 2013年 9月16日(月) 14:00~17:00

場所 東京大学本郷キャンパス赤門総合研究棟 A200 教室
<http://www.p.u-tokyo.ac.jp/cg>

定員 80名(要予約、先着順)
katari@p.u-tokyo.ac.jp まで、氏名・所属・連絡先をお知らせ下さい。

参加費 無料

主催 東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース

共催 日本質的心理学会